

タイトル	退職にあたって
著者	安酸, 敏真; YASUKATA, Toshimasa
引用	北海学園大学人文論集(74): 49-87
発行日	2023-03-31



安酸敏眞教授

退職にあたって

安 酸 敏 眞

来る3月31日をもって本学を定年退職することになりました。

思い起こせば、2004（平成16）年4月に本学に着任してから、丸19年が過ぎたことになります。その間、学内紀要委員、入試委員、入試制度委員、協議委員、大学院委員、将来構想委員、人文学部長、図書館長、学長、理事長などを歴任してきました。人文学部の創設20周年に向けてカリキュラム改革を主導し、新科目として導入されることになった1年生必修の「人文学概論」のために、新たに教科書を書き下ろし、その科目を自ら担当したことも、いまとなっては懐かしい思い出です。本来学長が担当すべき「大学史」の講義も、木村前学長があまり乗り気でなかったために、学長に就任する以前からかなりの部分を自分が担当しましたが、この講義は自分にとってとても有意義なものでした。なぜなら、これによって大学を根本から考え直す眼が養われたからです。

2017（平成29）年4月に第10代学長に就任し、これまで2期6年にわたって学長職を務めてきました。学長になると学部籍を離れますので、過去6年間は人文学部の教職員や学生たちとの日常的な触れ合いがなくなり、この点はとても残念でした。また学長在職期間に、人文学部の多くの同僚たちが退職されましたので、人文学部所属の教員でも自分の知らない先生方が増えました。立場的には逆ですが、さながら「ここに、ヨセフのことを知らない新しい王が、エジプトに起った」（出1：8）かのような状況となり、最長老となった自分もいよいよ幕引きのときを迎えた次第です。

わたしは1987（昭和62）年10月の盛岡大学文学部助教授就任を皮切りに、聖学院大学（1993年3月～2004年3月）、そして本学と三つの大学で専任教員を務めてきましたが、その間に非常勤講師として、立教大学、国

立音楽大学、福岡県立大学、京都大学、北海道大学でも教える機会を与えられてきました。担当した科目は、哲学、哲学の人間学、聖書と英米文学、キリスト教学、キリスト教学概論、キリスト教思想史、宗教史学、ヨーロッパ文化概論、ヨーロッパ思想史、ヨーロッパ文化史、ドイツ近代思想、アメリカ社会論、米国文化論、人文学概論、大学史、英語、ドイツ語、大学院演習などと、多岐にわたっています。つくづく自分は“Jack-of-all-trades”（よろず屋、何でも屋）だと思います。挙句の果てに、非キリスト教大学の学長および理事長になったのですから、わが人生はまことに tragicomedy（悲喜劇）のようなものです。

というのは、盛岡大学と聖学院大学はいずれもキリスト教の大学でしたので、本来であれば自分の専門を最も活かせる大学だったはずです。しかし諸般の事情から必ずしも居心地がよろしくありませんでした。むしろ自分としては、北海学園大学に移ってきてから、ようやく精神の自由を得て、専門の学問研究に打ち込むことができるようになりました。このことは、後続の「業績一覧」によっても一目瞭然であろうと思います。ですから、本学に移籍してきたことは、自分にとって大変ラッキーなことだったと思います。仲介の労を取ってくださった土屋博先生に、あらためて深く感謝したいと思います。

とはいえ、学長職とか理事長職に就くことは、まったく想定外の出来事でした。これは神様が自分に与えられた試練であるか、あるいは人の弱みにつけ込む悪魔の悪戯（いたづら）であるか、いずれにせよ自分の欲せぬことでした。とりわけ、学長職に加えて理事長職をも兼務するようになってから、心身ともに相当な負荷がかかり、心かなりの青あざができたことも事実です。このような状態からようやく脱却できるかと思えば、いまは解放の日が来ることをただただ待ち望んでいます。ただし、自分が望んでいるように事がうまく進むかどうかはわかりません。「人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である」（箴 16：9）とあるように、自分が願った通りになるとは限らないからです。わたしとしては導かれるがままに歩を進めていくしかありません。

最後に、長い間お世話になり本当にありがとうございました。北海学園
大学人文学部の今後の発展をお祈りして、退職の辞とさせていただきます。

履 歴

安酸敏眞（やすかた・としまさ） 1952 年 1 月 26 日 鳥取県米子市生まれ

学 歴

- 1970 年 3 月 鳥取県立米子東高等学校卒業
- 1970 年 4 月 京都大学工学部合成化学科入学
- 1972 年 4 月 京都大学文学部哲学科基督教学専攻編入
- 1975 年 3 月 同上卒業（文学士）
- 1975 年 4 月 京都大学大学院文学研究科修士課程宗教学（キリスト教学）専攻入学
- 1977 年 3 月 同上修了（文学修士）
- 1977 年 4 月 京都大学大学院文学研究科博士課程宗教学（キリスト教学）専攻進学
- 1980 年 3 月 同上単位取得満期退学
- 1980 年 8 月 米国ヴァンダービルト大学大学院博士課程宗教学専攻入学
- 1985 年 5 月 米国ヴァンダービルト大学大学院博士課程宗教学専攻修了（Ph. D.）

職 歴

- 1980 年 4 月 （財）日本学術振興会奨励研究員（受入機関：京都大学） ～ 1980 年 8 月
- 1983 年 11 月 西独ゲッティンゲン大学神学部研究員 ～1985 年 3 月
- 1985 年 4 月 （財）日本生産性本部シンガポール協力室常勤嘱託 ～1985 年 9 月
- 1985 年 10 月 （財）日本学術振興会特別研究員（受入機関：京都大学） ～

1987 年 3 月

1987 年 4 月 (財) 日本生産性本部海外技術協力部常勤嘱託 ～1987 年 9 月

1987 年 10 月 盛岡大学文学部一般教育科助教授 ～1993 年 3 月

1993 年 3 月 聖学院大学人文学部欧米文化学科助教授 ～1996 年 3 月

1994 年 4 月 聖学院大学人文学部欧米文化学科長 ～1996 年 3 月

1996 年 4 月 聖学院大学人文学部欧米文化学科教授 ～2004 年 3 月

1999 年 4 月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科（修士・博士課程）教授 ～2004 年 3 月

2002 年 4 月 聖学院大学人文学部欧米文化学科長 ～2004 年 3 月

2004 年 4 月 北海学園大学人文学部英米文化学科教授～現在に至る

2004 年 4 月 北海学園大学大学院文学研究科教授 ～現在に至る

2010 年 4 月 北海学園大学人文学部長 ～2013 年 3 月

2014 年 4 月 北海学園大学図書館長 ～2017 年 3 月

2017 年 4 月 北海学園大学学長 ～現在に至る

2021 年 6 月 学校法人北海学園理事長 ～現在に至る（2023 年 3 月 31 日退任予定）

学 内 委 員（主なもの）

学内紀要委員，入試委員，入試制度委員，協議委員，大学院委員，将来構
想委員，人文学部長，図書館長，学長

所 属 学 会

日本基督教学会，京都大学基督教学会，Ernst-Troeltsch-Gesellschaft

学 位

Ph. D.（ヴァンダービルト大学，1985 年）

京都大学博士（文学）（京都大学，1997 年；学位記番号 文第 333 号）

受 賞

1987年9月 日本宗教学会賞受賞（受賞対象：*Ernst Troeltsch: Systematic Theologian of Radical Historicity* (Atlanta: Scholars Press, 1986)）

主 要 業 績

研 究 業 績（雑録その他も含む）

1. 著書（単著）

- 01 *Ernst Troeltsch: Systematic Theologian of Radical Historicity* (American Academy of Religion Academy Series No. 55) (単) 1986/12 Atlanta: Scholars Press（現在は Oxford: Oxford University Press より出版）. A5 版, xxx+219pp. ISBN1-55540-070-1; 1-55540-069-8 PBK
- 02 『レッシングとドイツ啓蒙』(単) 1998/10 創文社, A5 版, 430 頁。ISBN4-423-17108-2
- 03 『歴史と探求—レッシング・トレルチ・ニーバー』(単) 2001/03 聖学院大学出版会, A5 版, 205+6 頁。ISBN978-4-915832-39-2
- 04 *Lessing's Philosophy of Religion and the German Enlightenment: Lessing on Christianity and Reason* (American Academy of Religion Reflection and Theory in the Study of Religion Series) (単) 2002/01, New York: Oxford University Press. xvi+224pp. ISBN0-19-514494-5（本書の概要については, Oxford Scholarship Online (<https://academic.oup.com/book/25356>) に詳細な英文要旨が掲載されている）
- 05 『歴史と解釈学—《ベルリン精神》の系譜学』(単) 2012/07 知泉書館, A5 版, 600 頁。ISBN978-4-86285-135-2

- 06 『人文学概論—新しい人文学の地平を求めて』(単) 2014/07 知泉書館, 四六判, 277 + xi 頁。ISBN978-4-86285-192-5
- 07 『欧米留学の原風景—福沢諭吉から鶴見俊輔へ』(単) 2016/05 知泉書館, 四六判, 481 + 29 頁。ISBN978-4-86285-233-5
- 08 『増補改訂版 人文学概論—人文知の新たな構築をめざして』(単) 2018/03 知泉書館, 四六判, 296 + xiii 頁。ISBN978-4-86285-271-7
- 09 『キリスト教思想史の隠れた水脈—フィオーレのヨアキムからニーバーへ』(単) 2020/11 知泉書館, 四六判, xv + 385 頁。ISBN978-4-86285-323-3
- 10 『つむじ風に巻き上げられて—随筆・回想』(単) 2021/09 共同文化社, 四六判, 220 頁。ISBN978-4-87739-357-1
- 11 『「キリスト教学」の探究』(単) 2023/02 教文館, A5 版, 289 頁。ISBN978-4-7642-7468-6

2. 著書 (共著)

- 01 水垣 渉・小高 毅編『総説キリスト論論争史』(共) 日本基督教団出版局, 2003/07 (第五章の「近・現代」(プロテスタント) (441-528 頁) の部分を担当。啓蒙主義, ライマールス, レッシング, カント, シュライエルマッハー, ヘーゲル, シュトラウス, F.C. バウル, ビーダーマン, キルケゴール, チャニング, ブッシュネル, F.D. モーリス, トマジウス, I.A. ドルナー, リッチェル, ヘルマン, ハルナツク, ラウシェンブッシュ, ヨハannes・ヴァイス, シュヴァイツァー, M. ケーラー, トレルチ, バルト, ブルトマン, ティリッヒ, R. ニーバー, パネンベルクにおけるキリスト論の問題を論述)。ISBN978-4-8184-0496-9
- 02 古屋安雄・倉松功・近藤勝彦・阿久戸光晴編集『歴史と神学—大木英夫教授喜寿記念献呈論文集』上巻 (共) 聖学院大学出版会, 2005/11 (「中間時の思想—ラインホルド・ニーバーに関する一断想」を執筆。52-92 頁所収)。ISBN978-4-915832-63-5

- 03 *Frühes Christentum und Religionsgeschichtliche Schule*. Festschrift zum 65. Geburtstag von Gerd Lüdemann. Herausgegeben von Martina Janßen, F. Stanley Jones, und Jürgen Wehnert. (共) Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 2011/5 (“Ernst Troeltsch und die Konsequenz des historischen Denkens”を執筆。205-216 頁所収)。ISBN978-3-525-53977-4
- 04 久保田浩編『越境する宗教史』(共) リトン, 2020/12 「(「宗教史学派の体系家」(トレルチ)に見るディシプリンの越境」を執筆。下巻, 217-237 頁所収)。ISBN978-4-86376-084-4
- 05 加藤泰史編『スピノザと近代ドイツ—思想史の虚軸』(単) 岩波書店, 2022 (第二部第一章「レッシングとスピノザ」を執筆。97-119 頁所収)。ISBN978-4-00-001089-4

3. 翻訳書

- 01 ゲルハルト・デリング「神と神々—ヨセフスと異教徒の宗教」(単) 1985/12 L.H.フェルトマン・秦 剛平共編『ヨセフス・ヘレニズム・ヘブライズム I』山本書店, 131-145, 465-469 頁。
- 02 エルンスト・トレルチ『信仰論』(単) 1997/04 (『近代キリスト教思想双書』第3巻, 教文館, A5 版, 441 頁。ISBN4-7642-7162-1
- 03 フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ『トレルチとドイツ文化プロテスタンティズム』(編集・共訳) 2001/01 聖学院大学出版会, A5 版, 312+7 頁(「序論—自由主義文化プロテスタンティズムのアクチュアルな意義について」(3-23 頁), 「宗教と個性—エルンスト・トレルチの宗教理論の根本問題について」(193-228 頁)を翻訳すると同時に, 「あとがき」(304-312 頁)を執筆)。ISBN978-4-915832-40-6
- 04 カール・バルト『十九世紀のプロテスタント神学』(中巻) (共訳) 2006/08 新教出版社, A5 版 (「6 レッシング」[77-116 頁]と「8 ヘルダー」[173-206 頁]を翻訳)。ISBN978-4-400-30212-1

- 05 カール・バルト『十九世紀のプロテスタント神学』（下巻）（共訳）
2007/10 新教出版社, A5 版（「11 シュライエルマッハー」〔11-75 頁〕, 「12 ヴェークシャイダー」〔76-87 頁〕, 「13 デ・ヴェッテ」〔88-101 頁〕, 「14 マールハイネケ」〔102-114 頁〕, 「15 パウル」〔115-132 頁〕, 「16 トールック」〔133-147 頁〕, 「17 メンケン」〔148-172 頁〕, 「20 シュヴァイツァー」〔222-234 頁〕, 「21 ドルナー」〔235-251 頁〕, 「22 ミュラー」〔252-265 頁〕, 「23 ローテ」〔266-280 頁〕, 「24 ホーフマン」〔281-294 頁〕, 「25 ベック」〔295-308 頁〕, 「26 フィルマール」〔309-323 頁〕, 「27 コールブリュッケ」〔324-338 頁〕, 「29 リッチェル」〔356-369 頁〕を翻訳）。ISBN978-4-400-30213-1
- 06 ヴォルフハルト・パネンベルク『現代に生きる教会の使命』（共訳）
2009/01 聖学院大学出版会, 四六判（「エキュメニカルな職務理解」〔146-176 頁〕を翻訳）。ISBN978-4-915832-86-4
- 07 日本ルター学会編訳『宗教改革者の群像』（共訳）2011/11 知泉書館, A5 版（ホルスト・ヴァイゲルト「セバスティアン・フランク」〔371-387 頁〕を翻訳）。ISBN978-4-86285-119-2
- 08 アウグスト・ベーク『解釈学と批判—古典的文獻学の精髓』（単）
2014/05 知泉書館, A5 版, 400 頁。ISBN978-4-86285-186-4
- 09 F・W・グラーフ編『キリスト教の主要神学者』下巻,（共訳）
2014/09 教文館, A5 版, 390+vii 頁（「ヨハン・ゲアハルト」〔9-30 頁〕, 「リシャール・シモン」〔31-43 頁〕, 「フィリップ・ヤコブ・シュペーナー／ヨハン・ヨアヒム・シュバルディング」〔45-68 頁〕, 「フリードリヒ・シュライアマハー」〔69-105 頁〕, 「ヨゼフ・クロイトゲン」〔107-126 頁〕, 「セーレン・キルケゴール」〔127-150 頁〕, 「アドルフ・フォン・ハルナック」〔173-190 頁〕, 「アルフレッド・ロワジー」〔191-209 頁〕, 「エルンスト・トレルチ」〔211-235 頁〕, 「カール・バルト」〔277-318 頁〕, 「ラインホルド・ニーバー／H・リチャード・ニーバー」〔319-354 頁〕, 「カール・ラーナー」〔355-380 頁〕,

- 「日本語版へのあとがき」〔381-385 頁〕を翻訳)。ISBN978-4-7642-7385-9
- 10 シュライアマハー 『『キリスト教信仰』の弁証』(単) 2015/08 知泉書館, 四六版, 182+46+x 頁。ISBN978-4-86285-214-4
- 11 F・W・グラーフ, 安酸敏眞監訳『真理の多形性—F・W・グラーフ博士来日記念講演集』(共訳) 2020/03 北海学園大学出版会, A5版, 302 頁。第四章(63-75 頁), 論文一(121-156 頁), 論文二(157-250 頁), 「私の日本滞在記」(253-273 頁)を翻訳。巻末の「解題 グラーフ博士と「真理の多形性」」(275-295 頁)も執筆。ISBN978-4-910236-00-1
- 12 シュライアマハー 『キリスト教信仰』(単) 2020/12 教文館, A5版, 1095+xv 頁。ISBN978-4-7642-1812-3

4. 学術論文

- 01 「エルンスト・トレルチにおける“Kompromiß”の概念」(単) 1979/12 京都大学基督教学会『基督教学研究』第2号, 104-118 頁。
- 02 「エルンスト・トレルチにおける《歴史の神学》の構想」(単) 1982/12 京都大学基督教学会『基督教学研究』第5号, 76-89 頁。
- 03 “The Encounter between Japanese Intellectuals and Troeltsch: A Historical Review.” (単) 1985/02 *Mitteilungen der Ernst-Troeltsch-Gesellschaft*, Bd.3, 18-37.
- 04 Ernst Troeltsch as the Systematic Theologian of Radical Historicity. (単) 1985/05 *University Microfilms International*. No. 8522454. 336pp (ヴァンダービルト大学博士論文のマイクロフィルム版).
- 05 「エルンスト・トレルチと現代の思想的境位」(単) 1989/03 『盛岡大学紀要』第8号, 53-63 頁。
- 06 「比較文化の神学的考察」(単) 1989/06 盛岡大学比較文化研究センター『比較文化研究年報』第1号, 23-42 頁。

- 07 「歴史の真理と理性の真理—レッシングの命題について」(単)
1990/03 『盛岡大学紀要』第9号, 89-98頁。
- 08 「バルトのレッシング解釈」(単) 1991/03 『盛岡大学紀要』第10号,
123-133頁。
- 09 「レッシングの神学思想—序説」(単) 1991/07 京都大学基督教学会
『基督教学研究』第12号, 75-105頁。
- 10 「『歴史の終焉』についての一考察—F. フクヤマ, K. レーヴィット,
R. ニーバーの歴史理解に関する比較研究」(単) 1992/09 盛岡大学
比較文化研究センター『比較文化研究年報』第4号, 29-58頁。
- 11 「トレルチの *Glaubenslehre* 研究—再評価のための試論」(単)
1993/03 『盛岡大学紀要』第12号, 151-162頁。
- 12 「レッシングとゲッツェの論争—その最初の鏝ざり合い」(単)
1994/01 『聖学院大学論叢』第6巻, 179-192頁。
- 13 「レッシングとスピリチュアリズムスの伝統」(単) 1995/01 『聖学
院大学論叢』第7巻第2号, 159-176頁。
- 14 「レッシングの「スピノザ主義」(1)」(単) 1996/01 『聖学院大学
論叢』第8巻第2号, 249-268頁。
- 15 「若きレッシングの宗教思想」(単) 1996/10 京都大学基督教学会『基
督教学研究』第16号, 157-179頁。
- 16 「レッシング宗教哲学の研究」(単) 1996/10 京都大学文学博士論文,
A4, iii+207頁。
- 17 「レッシングの「スピノザ主義」(2)」(単) 1997/02 『聖学院大学
論叢』第9巻第2号, 157-170頁。
- 18 「「ドイツ的自由」の問題性—ドイツ的自由の理念の思想史的考察」
(単) 1997/03 『聖学院大学総合研究所紀要』第11巻, 95-135頁。
- 19 「レッシングと劇詩『賢者ナータン』—レッシングの『人間性の思想』」
(単) 1997/09 『聖学院大学論叢』第10巻第1号, 139-162頁。
- 20 「レッシングの神観」『日本の神学』第37号(1998年), 9-32頁。
- 21 「近代プロテスタンティズムにおけるキリスト像の変遷(1)」(単)

- 1998/09 『聖学院大学論叢』第11巻第1号, 111-142頁。
- 22 「十九世紀のキリスト像—十九世紀中葉から二十世紀初頭にかけて」
(単) 1999/01 『聖学院大学論叢』第11巻第3号, 193-217頁。
- 23 「レッシングにおける真理探求の問題」(単) 1998/12 京都大学基督教学会『基督教学研究』第18号, 153-174頁。
- 24 「トレルチにおける「万有在神論」の思想」(単) 2000/02 『聖学院大学論叢』第12巻第2号, 183-199頁。
- 25 「トレルチとセバステイアン・フランク」(単) 2000/12 京都大学基督教学会『基督教学研究』第20号, 21-45頁。
- 26 「セバステイアン・フランクについて」(単) 2001/02 『聖学院大学論叢』第13巻第2号, 187-204頁。
- 27 「「万有在神論」(Panentheismus) についての研究(課題番号10610027)」(単) 2001/03 平成10年度～平成12年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書。A4版, 82頁。
- 28 「ルターとセバステイアン・フランク—「永遠の敵」?」(単) 2002/02 『聖学院大学論叢』第14巻第2号, 203-220頁。
- 29 「セバステイアン・フランクにおける「第四の信仰」」(単) 2002/03 日本ルター学会『ルターと宗教改革』第3号, 33-53頁。
- 30 「セバステイアン・フランクの根本思想—スピリチュアリズムと歴史認識」2003/03 『聖学院大学論叢』第15巻第2号, 343-363頁。
- 31 「セバステイアン・フランクの根本思想」(単) 2003/09 日本基督教学会編『日本の神学』第42号, 36-58頁。
- 32 「アメリカニズムと宗教」(単) 2003/11 『聖学院大学論叢』第16巻第1号, 103-128頁。
- 33 「もう一つの「レッシングが事を記す」」(単) 2003/12 『キリスト教と諸学』第19号, 76-122頁。
- 34 「ニーバー兄弟とアメリカ」2004/03 『聖学院大学論叢』第16巻第2号, 61-91頁。
- 35 「H・リチャード・ニーバーのアメリカ文化論」(単) 2004/02 『聖学

- 院大学総合研究所紀要』第28号, 143-181頁。
- 36 「現代神学におけるレッシングの影」(単) 2004/07 『東北学院大学キリスト教文化研究所紀要』第22号, 1-36頁。
- 37 「トレルチ, マイネッケ, ローゼンツヴァイク」(共) 2004/07 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 28号, 67-131頁(佐藤貴史氏と共同執筆。「はじめに」と第一章を安酸が執筆, 第二章と「むすびにかえて」を佐藤が執筆)。
- 38 「セバスティアン・フランクにおける終末論と神秘主義」(単) 2005/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 30号, 35-70頁。
- 39 「セバスティアン・フランクにおける終末論と神秘主義—プロテスタント的スピリチュアリズムの思想構造の分析(課題番号15520060)」(単) 2005/06 平成15年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書。A4版, 63頁。
- 40 「トレルチと「歴史主義」の問題」(単) 2005/12 『年報 新人文』(北海学園大学大学院文学研究科) 第2号, 6-83頁。
- 41 「トレルチと「キリスト教学」の理念」(単) 2005/12 京都大学基督教学会『基督教学研究』第25号(水垣教授古稀記念号), 191-212頁。
- 42 「トレルチの神学論—再評価のための全般的考察」(単) 2006/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 33号, 1-37頁。
- 43 「トレルチと「歴史主義」の問題(承前)」(単) 2006/12 『年報 新人文』(北海学園大学大学院文学研究科) 第3号, 36-111頁。
- 44 “Lessing as a Proponent of Modern Dialectical Theism.” (単) 2007/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 36号, 85-100頁。
- 45 「アウグスト・ベークと文献学」(単) 2007/10 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 37号, 128-174頁。
- 46 「村岡典嗣と波多野精一—嚮応する二つの「学問的精神」」(単) 2008/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 39号, 199-238頁。
- 47 「いま「キリスト教学」を問う—学問史的考察」(単) 2009/03 『キ

- リスト教学再考—2007-2008 年度のシンポジウム』（日本基督教学会北海道支部），1-18 頁。
- 48 「キリスト教理解とその方法について」（単）2009/03 『キリスト教学再考—2007-2008 年度のシンポジウム』（日本基督教学会北海道支部），35-51 頁。
- 49 「アウグスト・バークの解釈学」（単）2009/12 『年報 新人文』（北海学園大学大学院文学研究科）第 6 号，8-40 頁。
- 50 「解釈学と歴史主義—A・バークと J・G・ドロイゼンを中心に」（単）2010/03 『人文論集』（北海学園大学人文学会）45 号，143-167 頁。
- 51 「「思想史」の概念と方法について—問題史的研究の試み」（単）2010/07 『人文論集』（北海学園大学人文学会）46 号，97-145 頁。
- 52 「ニーバー²と「エルンスト・トレルチの影」（単）2010/09 『聖学院大学総合研究所紀要』第 48 号，137-199 頁。
- 53 「ドロイゼンの「探究的理解」について」（単）2010/12 『年報 新人文』（北海学園大学大学院文学研究科）第 7 号，166-214 頁。
- 54 「クリオとヘルメース」（単）2011/03 『人文論集』（北海学園大学人文学会）48 号，43-95 頁。
- 55 「ディルタイにおける解釈学と歴史主義」（単）2011/07 『人文論集』（北海学園大学人文学会）49 号，1-33 頁。
- 56 「シュライアーマッハーにおける一般解釈学の構想」（単）2011/12 『人文論集』（北海学園大学人文学会）50 号，23-59 頁。
- 57 「ブルトマン再考—実存的「歴史性」の概念の再検討」（単）2012/12 京都大学基督教学会『基督教学研究』第 32 号，33-56 頁。
- 58 「エルンスト・トレルチにおける歴史化の概念」（共）2013/03 『人文論集』（北海学園大学人文学会）54 号，83-120 頁（塩濱健児氏と共同執筆）。
- 59 “Ernst Troeltsch and German Historicism.”（単）2013/ *Mitteilungen der Ernst-Troeltsch-Gesellschaft*, Bd. 23, 未刊。
- 60 「レッシングのキリスト教—伝記的解釈の試み」（単）2013/12 京都

大学基督教学会『基督教学研究』第33号, 169-190頁。

- 61 「『神学史』的研究方法の妥当性と限界？—深井氏のブルトマン解釈についての一断想」(単) 2014/03 日本基督教学会北海道支部『ヨーロッパ神学史の新しい見方(日本基督教学会北海道支部公開シンポジウム記録第3号)』53-68頁。
- 62 「レッシングとメンデルスゾーンの友情—普遍的「人間性」の理想を追い求めて」(単) 2015/03 『人文学の新しい可能性』(平成25-26年度北海学園学術研究助成総合研究報告書), 223-244頁。
- 63 「「永遠の契約」か, それとも「和解」か?—キリスト教信仰と学問研究をめぐるシュライアマハーとヘーゲルの対立」(単) 2015/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 58号, 29-52頁。
- 64 「^{いま}現在, あらためて『人文学』を問う」(単) 2015/10 *Waseda Rilas Journal* (早稲田大学総合人文科学研究センター) No. 3, 245-253.
- 65 「福沢諭吉と西周の留学体験—わが国の知識人と留学(その一)」(単) 2016/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 60号, 121-142頁。
- 66 「シュライアマハーの『キリスト教信仰』についての一考察」(単) 2020/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 68号, 179-189頁。
- 67 「恐れ／畏れを生きる——キリスト教思想史家の視点」(単) 2022/03 『宗教哲学研究』(京都大学宗教学研究室) 39号, 1-13頁。
ISBN978-4-8122-2117-4

5. 解説・解題

- 01 「訳者のことば」(単) カール・バルト, 佐藤司郎・安酸敏眞・戸口日出夫・酒井修訳『十九世紀のプロテスタント神学』(中巻)(共訳) 2006/08 新教出版社, 362-366頁。ISBN978-4-400-30212-1
- 02 「解説」(単) カール・バルト, 安酸敏眞・佐藤貴史・濱崎雅孝訳『カール・バルト著作集13 十九世紀のプロテスタント神学 下』(共訳) 2007/10 新教出版社, 371-383頁。ISBN978-4-400-30213-1
- 03 「解説あとがき」(単) アウグスト・バーク, 安酸敏眞訳『解釈学と

- 批判—古典文献学の精髓』2014/05 知泉書館, 371-381 頁。
ISBN978-4-86285-186-4
- 04 「監訳者あとがき」(単) F・W・グラーフ編, 安酸敏眞監訳『キリスト教の主要神学者 下 リシャール・シモンからカール・ラーナーまで』(共訳) 2014/09 教文館, 387-390 頁, ISBN978-4-7642-7384-9
- 05 「解題 シュライアマハーと『キリスト教信仰』」(単) シュライアマハー, 安酸敏眞訳『『キリスト教信仰』の弁証』2015/08 知泉書館, 135-175 頁。ISBN978-4-86285-214-4
- 06 「訳者あとがき」(単) シュライアマハー, 安酸敏眞訳『『キリスト教信仰』の弁証』2015/08 知泉書館, 177-182 頁。ISBN978-4-86285-214-4
- 07 「解題 グラーフ博士と「真理の多形性」」(単) F・W・グラーフ, 安酸敏眞監訳『真理の多形性』(共訳) 2020/03 北海学園大学出版会, 275-295 頁。ISBN978-4-910236-00-1
- 08 「解説」(単) エリザベス・シフトン, 穂田信子訳『平静の祈り』2020/12 新教出版社, 319-343 頁。ISBN978-4-21328-4
- 09 「解説—訳者あとがきにかえて」(単) シュライアマハー, 安酸敏眞訳『キリスト教信仰』2020/12 教文館, 1069-1094 頁。ISBN978-4-7642-1812-3
- 10 「解説」(単) セバスティアン・フランク, 福原嘉一郎訳『パラドクサ』2023/05 教文館, 347-378 頁。ISBN978-4-7642-9998-6

6. 編著

- 01 細川泰子, 安酸敏眞編『教育は愛なり』ヨルダン社, (単) 1989/06, 229 頁。ISBN4-8428-0033-X C0016
- 02 安酸敏眞・安酸庸祐編『安酸映—追悼集』アイワード, (共) 2005/02, 229 頁。
- 03 安酸敏眞・安酸庸祐編『安酸家の原風景』アイワード, (共) 2005/02, 146 頁。

7. その他

(1) 辞典・事典

- 01 大貫 隆・名取四郎・宮本久雄・百瀬文晃編『岩波キリスト教辞典』(単) 2002/06 岩波書店(「啓蒙主義」,「神学(プロテスタン
ト神学)」,「宗教史学派」,「新プロテスタンティズム」,「大学(近
世以降)」,「リッチェル」,「カント」,「新カント派」,「ドイツ・イ
デアリスムス」,「フランク, セバスチャン」,「神学(近世から現
代)」,「モナド論」,「フォイエルバッハ, ルートヴィヒ」,「倫理(倫
理主義的神の国)」,「新人文主義」,「調停神学」,「ティーク, ルー
トヴィヒ」,「ヘルマン, ヴィルヘルム」,「予定調和」,「ローフス」,
「シェリング」,「トレルチ」,「フィヒテ」,「ライプニッツ」,「ヴォッ
ペルミン, エルンスト」の項目を執筆)。ISBN978-4-00-080202-x
- 02 島蘭進・石井研士・下田正広・深澤英隆編『宗教学文献事典』(単)
2007/11 弘文堂(F.W. グラーフ『トレルチとドイツ文化プロテ
スタンティズム』, トレルチ『トレルチ著作集』, レッシング『賢
人ナータン』の項目を執筆)。ISBN978-4-3351-6048-6
- 03 井上順孝編『世界宗教百科事典』(単) 2012/12 丸善(株)出版事業
部(「プロテスタント概論」の項目を執筆)。ISBN978-4-621-
08577-6
- 04 東京神学大学神学会編『新キリスト教組織神学事典』(単)
2018/03 教文館(「トレルチ」の項目 [pp.281-285] を執筆)。
ISBN978-4-7642-4104-6
- 05 『ドイツ哲学・思想事典』(単) 2018/11 入稿, ミネルヴァ書房(「ト
レルチ」,『賢人ナータン』,『人類の教育』の項目), 未刊行。
- 06 『新版 キリスト教大事典』(単) 2019/09 入稿, 教文館(「近代ブ
ロテスタント史」,「ヴィーコ」,「ヴィンデルバント」,「コーエン」,
「解釈学」,「シュライアーマハー」,「トレルチ」,「キリスト教の絶対
性」,「レッシング」,「断片論争」,「ネオロギー」の項目), 未刊行。
- 07 『啓蒙思想の百科事典』(単) 2023/01, 丸善(株)出版事業部(「18 世

(2) 学会発表

- 01 「ラインホルド・ニーバーの歴史理解とその問題性」(単)
1977/03 日本基督教学会関西支部会。
- 02 「レッシングの問い」(単) 1987/04 日本基督教学会関東支部会。
- 03 「レッシングにおける歴史の問題」(単) 1987/09 日本宗教学会第
46 回学術大会。
- 04 “Was ist, der systematische Einheitsgedanke von Ernst Troeltschs
Lebenswerk?” (単) 1988/09 第3回国際エルンスト・トレルチ学
会(於: 西独アウクスブルク市)。
- 05 「トレルチの *Glaubenslehre* について」(単) 1992/09 日本基督教
学会第40回学術大会。
- 06 「レッシングとスピリチュアリズムの伝統」(単) 1994/10 日本
基督教学会第42回学術大会。
- 07 「レッシングの神観」(単) 1997/08 日本基督教学会第45回学術
大会。
- 08 「セバスティアン・フランクの『パラドクサ』について」(単)
2000/09 日本ルター学会2000年度学術大会。
- 09 「セバスティアン・フランクの霊性主義における歴史批判の意義」
(単) 2002/09 日本宗教学会第61回学術大会。
- 10 「セバスティアン・フランクの根本思想」(単) 2002/09 日本基督
教学会第50回学術大会。
- 11 “Lessing as a Proponent of Modern Dialectical Theism.” (単)
2006/12 Lessing Society Session, MLA Annual Convention,
Philadelphia, U.S.A.
- 12 「いま「キリスト教学」を問う」(単) 2007/06 日本基督教学会北
海道支部公開シンポジウム「キリスト教学再考」(2007.6.30)。
- 13 「キリスト教理解とその方法について」(単) 2008/06 日本基督教

学会北海道支部公開シンポジウム「キリスト教学と組織神学」
(2008.6.28)。

- 14 「J・G・ドロイゼンにおける歴史主義と解釈学」(単) 2010/09 日本宗教学会第 69 回学術大会。
- 15 “Ernst Troeltsch and German Historicism.” (単) 2011/10 The 10th International Ernst-Troeltsch-Kongress, Ernst-Troeltsch Forschungskolloquium (10. Oktober 2011), München, Germany.
- 16 「「永遠の契約」か、それとも「和解」か？」(単) 2014/12 京都大学基督教学会第 13 回学術大会 (2014.12.13)。
- 17 「シュライアマハーの『キリスト教信仰』についての一考察」(単) 2019/09 日本宗教学会第 78 回学術大会。

(3) 学術講演・公開講座

- 01 「キリスト教と現代—トレルチの現代的レリヴァンス」(単) 1988/08 「大学キリスト者の会」。
- 02 「レッシングと Deutscher Idealismus」(単) 2001/01 京都ヘーゲル讀書會冬季研究會。
- 03 「もう一つの「レッシングが事を記す」」(単) 2002/10 聖学院大学 2002 年度秋のキリスト教週間「キリスト教と諸学」(2002.10.23)。
- 04 「現代神学におけるレッシングの影」(単) 2003/11 東北学院大学キリスト教文化研究所 (2003.11.28)。
- 05 「近代合理主義と宗教」(単) 2005/11 北海学園大学人文学部第 13 回市民公開講座 (2005.11.5)。
- 06 「近代西欧に見る死生観の変遷」(単) 2007/11 北海学園大学人文学部第 15 回市民公開講座 (2007.11.24)。
- 07 「解釈学と歴史主義—A・ベークと J・G・ドロイゼンを中心に」(単) 2010/01 京都ヘーゲル讀書會冬季研究會 (2010.1.10 京大会館)。

- 08 「ニーバー²と「エルンスト・トレルチの影」」(単) 2010/05 ラインホルド・ニーバー研究会第4回例会(2010.5.15 聖学院本部)。
- 09 「ニーバー再考—その歴史理解を中心に」(単) 2013/02 ラインホルド・ニーバー研究会第6回例会(2013.2.18 聖学院本部)。
- 10 「思想史の研究方法について—キリスト教思想史研究の工房より」(単) 2014/01 思想史研究会(2014.1.22 北海学園大学)。
- 11 「ニーバーのルネサンス解釈の思想史的考察」(単) 2014/02 ラインホルド・ニーバー研究会例会(2014.2.28 聖学院本部)。
- 12 「現在、あらためて《人文学》を問う」(単) 2014/12 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の人文学と東アジア文化圏—東アジアにおける人文学の危機と再生—」, キックオフ・シンポジウム「新しい人文学の地平を求めて—ヨーロッパの学知と東アジアの人文学」(2014.12.06 早稲田大学小野記念講堂 14:00-18:00)。
- 13 「レッシングの立場—汎神論論争とのからみあいにおいて」(単) 2015/07 第13回一橋哲学フォーラム第3回スピノザ・コネクション(2015.8.25 一橋大学佐野書院 12:40-19:40)。
- 14 「ドイツ思想史の一断面—ベルリン墓標めぐり」(単) 2018/11 日本法政学会講演(2018.11.3 北海学園大学 50 番教室)。
- 15 「人文学をどう再構築するか—新しい人文学への一つの試論」(単) 2018/12 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム「新しい人文学への展望—過去・現在・未来」(2018.12.22 早稲田大学 戸山キャンパス 33 号館 3 階第一会議室 13:30-17:30)。
- 16 「「わたしの著書」— Einzelgänger の足跡」(単) 2022/08 日本基督教学会北海道支部会(2022.08.11)。
- 17 「キリスト教と人格教育— 朴憲郁先生の主題講演へのコメント」(単) 2022/09 日本基督教学会第70回学術大会(2022.09.01)。
- 18 「人格教育のゆくえ」(単) 2022/10 第325回経営者セミナー, 一般社団法人倫理研究所・札幌大通り倫理法人会(2022.10.08)。

- 19 「《キリスト教学》の再検討 ― 有賀鐵太郎遺品資料を踏まえて」
(単) 2022/12 京都大学キリスト教学研究室創立 100 周年記念シンポジウム (2022.12.17)。

(4) 書評

- 01 E. トレルチ著, 近藤勝彦訳『歴史主義とその諸問題 (下)』(ヨルダン社), (単) 1988/06 『本のひろば』第 360 号 (1988 年 6 月号), 24-25 頁。
- 02 フランクリン・L・バウマー著, 鳥越輝昭訳『近・現代ヨーロッパの思想』(大修館書店), (単) 1993/02 『いずみ』(盛岡大学・盛岡大学短期大学部図書官報) 第 34 号, 5 頁。
- 03 B. A. Gerrish. *Continuing the Reformation: Essays on Modern Religious Thought* (Chicago: University of Chicago Press, 1993)
(単) 1994/08 『聖学院大学総合研究所 Newsletter』第 4 巻第 1 号, 28-29 頁。
- 04 芦名定道著『ティリッヒと弁証神学の挑戦』(創文社), (単) 1996/12 『宗教研究』(日本宗教学会) 310 号 (第 70 巻第 3 輯), 158-164 頁。
- 05 近藤勝彦著『トレルチ研究 (上・下巻)』(教文館), (単) 1997/08 『日本の神学』(日本基督教学会) 第 36 号, 83-88 頁。
- 06 “Geschichtsgestaltung: Troeltsch-Deutung in Japan” (単) 1999/09 *Mitteilungen der Ernst-Troeltsch-Gesellschaft*, Bd. 12, 223-230.
- 07 Peter C. Hodgson. *God's Wisdom: Toward a Theology of Education* (Louisville, Kentucky: Westminster John Knox Press, 1999), (単) 2000/08 『聖学院大学総合研究所 Newsletter』第 10 巻第 2 号, 19-20 頁。
- 08 Mark D. Chapman. *Ernst Troeltsch and Liberal Theology: Religion and Cultural Synthesis in Wilhelmine Germany* (Oxford: Oxford University Press, 2001). (単) 2002/12 *Mitteilungen der*

- Ernst-Troeltsch-Gesellschaft*. Band 15 (München, 2002), 102-109.
- 09 Gérard Vallée. *Soundings in G. E. Lessings Philosophy of Religion* (Lanham, New York, & Oxford: University Press of America, 2000) (単) 2003/12 *Studies in Religion / Sciences Religieuses* 31/2, 250-251.
- 10 藺田坦『クザーヌスと近世哲学』(創文社), (単) 2004/09 『日本の神学』(日本基督教学会) 第 43 号, 216-224 頁。
- 11 フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ著, 近藤正臣・深井智朗訳『ハルナックとトレルチ』(聖学院大学出版会), (単) 2007/12 『年報 新人文』 第 4 号, 322-329 頁。
- 12 石川明人『ティリッヒの宗教芸術論』(北海道大学出版会), (単) 2008/09 『基督教學』(北海道基督教学会) 第 43 号, 33-38 頁。
- 13 フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ著, 野崎卓道訳『プロテスタンティズム—その歴史と現状』(教文館), (単) 2008/10 『本のひろば』 第 608 号 (2008 年 11 月号), 2-3 頁。
- 14 梅津順一『ヴェーバーとピューリタニズム—神と富との間』(新教出版社), (単) 2011/09 『日本の神学』(日本基督教学会) 第 50 号, 156-160 頁。
- 15 小柳敦史『トレルチにおける歴史と共同体』(知泉書館), (単) 2016/11 『宗教研究』(日本宗教学会) 第 387 号 (第 90 巻第 3 輯), 141-147 頁。
- 16 ラインホルド・ニーバー著, 高橋義文・柳田洋夫訳『人間の運命 キリスト教的歴史解釈』(聖学院大学出版会), (単) 2017/07 『本のひろば』 第 716 号 (2017 年 8 月号), 10-11 頁。
- 17 菊地順『ティリッヒと逆説的合一の系譜』(聖学院大学出版会), (単) 2018/08 『本のひろば』 第 730 号 (2018 年 9 月号), 14-15 頁。
- 18 加納和寛『アドルフ・フォン・ハルナックにおける「信条」と「教義」』(教文館), (単) 2019/12 『本のひろば』 第 744 号 (2019 年

12月号), 18-19頁。

- 19 ラインホルド・ニーバー, 高橋義文・柳田洋夫訳『悲劇を越えて』(教文館), (単) 2023/02 『本のひろば』第782号(2023年2月号), 8-9頁。

(5) 奨励 (一部のみ収録)

- 01 「たった一度の人生」(単) 1993年10月28日聖学院大学全学礼拝奨励, 聖書:伝道の手紙 第3章16-22節(『つむじ風に巻き上げられて』(共同文化社, 2021年)176-183頁に収録)。
- 02 「ナルニアの国への入り口」(単) 1994年5月6日聖学院大学全学礼拝奨励, 聖書:マルコ福音書 第10章13-16節(『つむじ風に巻き上げられて』184-190頁に収録)。
- 03 「A Single Eye all Light?」(単) 1997年6月23日聖学院大学全学礼拝奨励, 聖書:マタイ福音書第6章22-23節(『つむじ風に巻き上げられて』190-198頁に収録)。
- 04 「道——キリストを歩く」(単) 1998年7月2日聖学院大学全学礼拝奨励, 聖書:ヨハネの第一の手紙第2章6節;ヨハネの第二の手紙4節
- 05 「脚下照顧」(単) 1999年12月1日聖学院大学全学礼拝奨励, 聖書:ローマ人への手紙 第13章12-14節。
- 06 「麦と毒麦のたとえ」(単) 2001年10月24日聖学院大学全学礼拝奨励, 聖書:マタイ福音書 第13章24-30節(『つむじ風に巻き上げられて』198-205頁に収録)。
- 07 「丘の上の町(a city upon a hill)」2003年5月9日聖学院大学全学礼拝奨励, 聖書:マタイ福音書 第5章13-16節(『つむじ風に巻き上げられて』205-213頁に収録)。

(6) 随筆・研究ノート

- 01 「我が国におけるエルンスト・トレルチ受容史(1)」(単) 1987/06

- 『形成』 No. 198, 20-25 頁。
- 02 「我が国におけるエルンスト・トレルチ受容史(2)」(単) 1987/07
『形成』 No. 199, 11-18 頁。
- 03 「我が国におけるエルンスト・トレルチ受容史(3)」(単) 1987/09
『形成』 No. 201, 28-33 頁。
- 04 「キリスト教教育における『神聖なる実験』」(単) 1988/02 『学苑
だより』(盛岡大学) 第14号, 5 頁。
- 05 「ポスト・モダンのキリスト教神学の可能性を求めて」(単)
1988/11 『教会と聖書』 1988 年 11 月号, 49 頁。
- 06 「キリスト教と現代—トレルチの現代的レリヴァンス」(単)
1989/02 『「大学キリスト者」紀要』 第6号, 7-15 頁。
- 07 「細川泰子先生のキリスト教教育理念」(単) 1992/09 細川泰子先
生追悼集刊行会『細川泰子先生追悼集』, 125-129 頁。
- 08 「ニーバーからトレルチへ, そして再びニーバーへ」(単) 1992/06
『形成』 No. 258/259, 55-63 頁。
- 09 「アメリカにおけるトレルチの再評価」(単) 1993/02 『福音と世
界』 1993 年 2 月号, 49-51 頁。
- 10 「たった一度の人生」(単) 1994/12 『緑信叢書』(聖学院大学・女
子聖学院短期大学宗教センター) 第16号, 24-29 頁。
- 11 「真理探求者レッシングに魅せられて」(単) 1998/11 『創文』 No.
404, 22-24 頁。
- 12 「武藤先生の思い出」(単) 2000/03 武藤一雄先生御夫妻追悼文集
編集委員会編『無きが如くに有りて生く』燈影社, 188-191 頁。
- 13 「脚下照顧」(単) 2000/10 『緑信叢書』(聖学院大学・女子聖学院
短期大学宗教センター) 第22号, 51-55 頁。
- 14 「海外特別研究期間報告」(単) 2001/01 『Seigakuin University
General Research Institute Newsletter』 Vol. 10-4, 15-16 頁。
- 15 「図書館とわたし—知識の森の必要性」(単) 2001/04 『ぱびるす』
第32号, 3 頁。

- 16 「『夢追い人』の半生—Intellectual Autobiography」(単) 2003/03
聖学院大学人文学部欧米文化学科ホームページ, 「欧米の広場」
Topics, in: http://www.seigakuin-univ.ac.jp/admission/oubei/library/topics_09.html
- 17 「丘の上の町」(単) 2004/05 『緑信叢書』(聖学院大学キリスト教
センター) 第30号, 54-59頁。
- 18 「安酸家の原風景—安酸映一の生涯とその家族的背景」(単)
2005/02 安酸敏眞・安酸庸祐編『安酸家の原風景』アイワード,
31-77頁。
- 19 「『夢追い人』の半生—Intellectual Autobiography」(単) 2005/02
安酸敏眞・安酸庸祐編『安酸家の原風景』アイワード, 124-144
頁。
- 20 「マイセン磁器とレッシング」(単) 2005/03 北海学園大学人文学
部『人文フォーラム』22号(2005.3), 14-15頁。
- 21 「レッシングと図書館」(単) 2006/03 北海学園大学『図書館だよ
り』第28巻第1号, 4頁。
- 22 「遠い日の語らい」(単) 2009/01 『本のひろば』第611号(2009
年3月) 1頁。
- 23 「「読む」ことと「書く」こと」(単) 2009/03 北海学園大学人文
学部『人文フォーラム』30号(2009.3), 8-9頁。
- 24 「「新しい人文学」をめざして」(単) 2011/03 『北海学園教育開発
ニュース』第1号(2011.3), 3頁。
- 25 「ボルゲーゼ美術館におけるベルニーニ体験」(単) 2013/03 『平
成24年度 ヨーロッパ研修旅行』(ヨーロッパ研究会), 56-58頁。
- 26 「『神学史』的研究方法の妥当性と限界—深井氏のブルトマン解釈
についての一断想」(単) 2014/02 日本基督教学会北海道支部『小
冊子』第3号。
- 27 「オーストリア図書館紀行」(単) 2015/04 『図書館だより』第37
巻第1号, 6-10頁。

- 28 「新しい人文学の学知を求めて—人文学部の改革私案—」(単) 2014/02 『北の大地から』(北海学園大学人文学部開設 20 周年記念誌) 168-184 頁。
- 29 「ユニバーサル化した大学のただ中で—自分で考える力 育む教育を—」(単) 2015/03 『北海道新聞』(夕刊) 2015 年(平成 27 年) 5 月 18 日(水曜日), 第 5 面(文化欄) 囲み記事
- 30 「人文学を学ぶ意義—「パンのための学問」がもてはやされる現代において」(単) 2015/07 『創文』 2015 夏 No. 18, 1-3 頁。
- 31 「「文化国家」とわが国の文教政策」(単) 2015/12 『図書館だより』 第 37 巻第 3 号, 2-4 頁。
- 32 「大学図書館の意義」(単) 2016/04 『図書館だより』 第 38 巻第 1 号, 1 頁。
- 33 「北海岳友会創立 60 周年に寄せて」(単) 2017/12 北海学園大学Ⅱ部北海岳友会会報『こまくさ』 第 10 号, 1 頁。
- 34 「会報十五号の発刊を祝して」(単) 2018/03 『謝学』 第十五号, 2 頁。
- 35 「『日本生産性本部』での日々」(単) 2018/07 『せいさんせい』(北海道生産性本部) Summer No. 254 (2018.7.1) 3 頁。

(7) 翻訳 (単行本として刊行されたものを除く)

- 01 G.E. レッシング「人類の教育」(単) 1996/09 『聖学院大学論叢』 第 9 巻第 1 号, 119-138 頁。
- 02 フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ「真理の多形性—ドイツ文化プロテスタンティズムのアクチュアルな意義について (2000 年 5 月 18 日, 京都大学大学院における講演)」(単) 2000/12 京都大学基督教学会『基督教学研究』 第 20 号, 113-135 頁。
- 03 フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ「人格と人間の尊厳—現代の倫理的紛争におけるエルンスト・トレルチ」(単) 2001/03 『紀要』(東京神学大学総合研究所) 第 4 号, 51-74 頁。

- 04 フリードリヒ・ヴィルヘルム・グラーフ「近現代文化における宗教（抄訳）」（単）2006/07 『人文論集』（北海学園大学人文学会）34号，103-171頁。
- 05 フランクリン・バウマー『西欧思想—中世から現代に至る西欧思想史』監修（安酸ゼミ翻訳）2009/02 スタジオパイカ，132+ii頁。
- 06 「アウグスト・ベーク『文献学的諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』—翻訳・註解（その1）」（単）2008/07 『人文論集』（北海学園大学人文学会）40号，1-58頁。
- 07 「アウグスト・ベーク『文献学的諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』—翻訳・註解（その2）」（単）2008/12 『人文論集』（北海学園大学人文学会）41号，53-94頁。
- 08 「アウグスト・ベーク『文献学的諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』—翻訳・註解（その3）」（単）2009/03 『人文論集』（北海学園大学人文学会）42号，213-281頁。
- 09 「アウグスト・ベーク『文献学的諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』—翻訳・註解（その4）」（単）2009/07 『人文論集』（北海学園大学人文学会）43号，27-51頁。
- 10 「アウグスト・ベーク『文献学的諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』—翻訳・註解（その5）」（単）2009/11 『人文論集』（北海学園大学人文学会）44号，57-95頁。
- 11 ジョン・パスモア『人間の完成する可能性』（抄訳）（単）2012/07 『人文論集』（北海学園大学人文学会）52号，1-37頁。
- 12 「アウグスト・ベーク『文献学的諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』—翻訳・註解（その6）」（単）2013/08 『人文論集』（北海学園大学人文学会）55号，39-102頁。
- 13 「アウグスト・ベーク『文献学的諸学問のエンチクロペディーならびに方法論』—翻訳・註解（その7）」（単）2014/03 『人文論集』（北海学園大学人文学会）56号，119-189頁。

- 14 シュライアマハー『キリスト教信仰』の翻訳と注解(その一)(単)
2017/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 62号, 75-119頁。
- 15 シュライアマハー『キリスト教信仰』の翻訳と注解(その二)(単)
2017/08 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 63号, 29-57頁。
- 16 シュライアマハー『キリスト教信仰』の翻訳と注解(その三)(単)
2018/03 『人文論集』(北海学園大学人文学会) 64号, 43-95頁。

(8) 研究報告

- 01 「レッシングにおける歴史の問題」(単) 1988/03 『宗教研究』(日本宗教学会) 第61巻第4輯 275号, 73-74頁。
- 02 「セバステイアン・フランクの霊性主義における歴史批判の意義」
(単) 2003/03 『宗教研究』(日本宗教学会) 第76巻第4輯 335号,
401-402頁。
- 03 「J・G・ドロイゼンにおける歴史主義と解釈学」(単) 2011/03
『宗教研究』(日本宗教学会) 第84巻第4輯, 263-265頁。
- 04 「新しい人文学の学知を求めて—人文学部の改革私案」(単)
2012/03 『新人文主義の位相—基礎的課題』(平成22・23年度北
海学園学術研究助成共同研究報告書), 3-22頁。
- 05 シュライアマハー『「キリスト教信仰」の弁証』(単) 2015/08 知
泉書館書, 182+46+x頁(2. 翻訳書10と内容的にはほぼ同一)。

(9) 雑録

- 01 「形成二〇〇号を祝して(2)」(単) 1987/09 『形成』No. 201, 11
頁。
- 02 「現代と宗教」(単) 1988/09 『盛岡大学第10回公開講座のご案内
—現代を生きる』, 5-6頁。
- 03 「解説あとがき」(単) 1989/06 細川泰子『教育は愛なり』ヨルダ
ン社, 225-229頁。
- 04 「学者の悲しいさがか…」(単) 1992/02 『いずみ』(盛岡大学・盛

- 岡大学短期大学部図書官報) 第 32 号, 3 頁。
- 05 「つむじ風に巻き上げられて」(単) 1994/06 聖学院大学・女子聖学院短期大学『全学礼拝週報 Chapel News』1994 年 6 月 No. 6, 1 頁。
 - 06 「新刊案内」(単) 2002/03 『聖学院大学欧米文化学科 Newsletter』No. 1, 第 10 面。
 - 07 「新任教員あいさつ・自己紹介」(単) 2004/05 『北海学園大学学報』第 56 号 (2004 年 5 月 15 日), 6 頁。
 - 08 「新入文学の形成」(単) 2004/08 北海学園大学人文学部『人文フォーラム』21 号 (2004. 8), 8 頁。
 - 09 「編集後記」(単) 2004/08 北海学園大学人文学部『人文フォーラム』21 号 (2004. 8), 21 頁。
 - 10 「あとがき」(単) 2005/02 安酸敏眞・安酸庸祐編『安酸映一追悼集』アイワード, 229 頁。
 - 11 「まえがき」(単) 2005/02 安酸敏眞・安酸庸祐編『安酸家の原風景』アイワード, 3-6 頁。
 - 12 「編集後記」(単) 2005/03 北海学園大学人文学部『人文フォーラム』22 号 (2005. 3), 19 頁。
 - 13 「編集後記」(単) 2005/03 北海学園大学大学院文学研究科『年報新入文学』1 号 (2005. 3), 262 頁。
 - 14 「歴史の背景にある思想世界を探る」(シリーズ学問は楽しい 6) (単) 2005/06 北海学園大学『大学案内 2006』, 59 頁。
 - 15 「編集後記」(単) 2007/12 北海学園大学大学院文学研究科『年報新入文学』4 号 (2007. 12), 341 頁。
 - 16 「まえがき」(単) 2009/02 フランクリン・バウマー『西欧思想—中世から現代に至る西欧思想史』監修 (安酸ゼミ翻訳), スタジオパイカ, i-ii 頁。
 - 17 「英米文化学科 1 年生のみなさんへ」(単) 2009/03 北海学園大学人文学部『英米文化学科 1 年生に薦めたい本—第 1 集』, 扉頁。

- 18 「編集後記」(単) 2009/12 北海学園大学大学院文学研究科『年報
新人文学』 6号 (2009. 12), 199 頁。
- 19 「はじめに」(単) 2010/04 北海学園大学『履修の手引き 2010 年
度(平成 22 年度)日本文化学科・英米文化学科』巻頭。
- 20 「人文学部への招待」(単) 2010/06 北海学園大学人文学部ホーム
ページ <http://www.jin-hgu.jp/information/index.html>。
- 21 「巻頭言 神は細部に宿る」(単) 2010/07 北海学園大学『人文
フォーラム』第 33 号, 1 頁。
- 22 「巻頭言 ふるさとの心象」(単) 2011/03 北海学園大学『人文
フォーラム』第 34 号, 1 頁。
- 23 「送別の辞」(単) 2011/03 北海学園大学『人文論集』第 48 号,
1-2 頁。
- 24 「はじめに」(単) 2011/04 北海学園大学『履修の手引き 2011 年
度(平成 23 年度)日本文化学科・英米文化学科』巻頭。
- 25 「人文学部で学ぶ学生諸君へ」(単) 2011/04 北海学園大学人文学
部ホームページ <http://www.jin-hgu.jp/information/index.html>。
- 26 「巻頭言 明るい時代の人間性」(単) 2011/07 北海学園大学『人
文フォーラム』第 35 号, 1 頁。
- 27 「巻頭言 二十歳の季節」(単) 2012/03 北海学園大学『人文フォー
ラム』第 36 号, 1 頁。
- 28 「人文学の新しい学知をめざして」(単) 2012/03 『北海学園大学
学報』。
- 29 「東北の復興について」(単) 2012/03 『北海学園大学 学報』。
- 30 「日本文化の古層—『日本文化演習報告書』発行に寄せて」(単)
2012/03 『平成 23 年度日本文化演習報告書』, 巻頭。
- 31 「人文学部で学ぶあなたへ」(単) 2012/04 北海学園大学人文学部
ホームページ <http://www.jin-hgu.jp/information/index.html>。
- 32 「巻頭言 翻訳についての雑感」(単) 2012/07 北海学園大学『人
文フォーラム』第 37 号, 1 頁。

- 33 「人文学部のカリキュラム改革について—その必要性, 課題, 基本的方向性」(単) 2012/11 人文学部の第 10 回教授会 (2012 年 11 月 29 日) にて配布。
- 34 「カリキュラム改革について」(単) 2013/03 北海学園大学『人文フォーラム』第 38 号, 1 頁。
- 35 「新しい日本文化理解の可能性—『日本文化演習報告書』第 2 号に寄せて」(単) 2013/03 『平成 24 年度日本文化演習報告書』, 巻頭。
- 36 「ブロック大学英語研修のすすめ—「国際文化演習報告書」の発行に寄せて」(単) 2013/03 『国際文化演習ブロック大学報告書 2012』, 1 頁。
- 37 「はしがき」(単) 2013/03 『ヨーロッパ研修旅行』(ヨーロッパ研究会), 1-3 頁。
- 38 「編集後記」(単) 2013/03 『ヨーロッパ研修旅行』(ヨーロッパ研究会), 62 頁。
- 39 「献辞」(単) 2011/03 北海学園大学『人文論集』第 54 号, 1-2 頁。
- 40 「「人文学の新しい可能性」をふり返って」(単) 2013/08 北海学園大学『人文フォーラム』第 39 号, 6-7 頁。
- 41 「人文学の新しい可能性—人文学部開設 20 周年記念シンポジウム」(単) 2013/09 『北海学園大学 学報』(2013 年 9 月 1 日) 第 1 面
- 42 「送る言葉」(濱忠雄先生)(単) 2014/03 北海学園大学『人文論集』第 56 号, 14-15 頁。
- 43 「巻頭言 新人文学についての愚考」(単) 2014/12 『年報 新人文学』第 11 号, 1-4 頁。
- 44 「はじめに」(単) 2015/03 『人文学の新しい可能性』(平成 25-26 年度北海学園学術研究助成総合研究報告書), 1-3 頁。
- 45 「送る言葉」(常見信代先生)(単) 2016/03 北海学園大学『人文論集』第 60 号, 15-16 頁。
- 46 「「グローバル人材」の育成」(単) 2017/05 『北海学園大学 大学

案内 2018』 1 頁。

- 47 「伝統を継承しつつ将来を切り拓く」(単) 2017/06 北海学園大学『学報』第 110 号, 第 1 面。
- 48 「AIM HIGH (望みを高く持つ)」(単) 2017/06 北海学園大学『学報』第 110 号, 第 2 面。
- 49 「プロフィールと学長としての抱負」(単) 2017/09 北海学園大学同窓会『豊平會報』第 79 号, 第 2 面。
- 50 「ミッションスクールたれ」(単) 2017/09 北海学園大学『学報』第 111 号, 第 1 面。
- 51 「学長室からの光景」(単) 2017/09 北海学園大学『学報』第 111 号, 第 2 面。
- 52 「北海学園大学の研究力」(単) 2017/11 『未知なる道を切り拓く北海学園大学の研究力』裏表紙(ホームページにもほぼ同様の内容を掲載)。
- 53 「グローバル化の時代に地域と世界をつなぐ有為な人材の育成を目指して」2018/01 『朝日新聞』1 月 1 日号。
- 54 「『文友』第四〇号の発刊によせて」(単) 2018/03 『文友』第 40 号, 7 頁。
- 55 「献辞」(買買提先生・本城誠二先生)(単) 2018/03 北海学園大学『学園論集』第 175 号, i-ii 頁。
- 56 「北海学園大学体育会ボクシング部創立 50 周年に向けて」(単) 2018/10 『北海学園大学体育会ボクシング部創立 50 周年記念誌』1 頁。
- 57 「開会挨拶」(単) 2018/03 北海学園大学開発研究所『開発研究所六十年史』179-180 頁。
- 58 「「地域と世界をつなぐ人材」の育成をめざして」(単) 2018/05 『北海学園大学 大学案内 2019』1 頁。
- 59 「海外留学に挑戦しよう」(単) 2018/04 『2018 年度留学ガイド』1 頁。

- 60 「社会人としての第一歩」(単) 2018/03 北海学園大学『学報』第113号, 第1面。
- 61 「卒業アルバムの発刊によせて」2018/06 北海学園大学『2018 北海学園大学卒業アルバム』024 頁。
- 62 「新しい教学と経営のシステムの必要性」2019/01 『北海学園大学教育開発ニュース』第45号, 2 頁。
- 63 「『北翼』第五六号の発刊を祝して」2019/03 北海学園大学体育会『北翼』56号, 3 頁。
- 64 「『文友』第四一号の発刊によせて」(単) 2019/03 北海学園大学文化協議会本部『文友』第41号, 7 頁。
- 65 「卒業アルバムの発刊によせて」2019/06 北海学園大学『2019 北海学園大学卒業アルバム』024 頁。
- 66 「未知なる道を切り拓く北海学園大学の研究力」2019/06 『未知なる道を切り拓く北海学園大学の研究力』裏表紙。
- 67 「祝辞」2019/10 北海学園大学少林寺拳法部創部五十周年記念誌『拳友』7 頁。
- 68 「卒業アルバムの発刊によせて」2020/06 北海学園大学『2020 北海学園大学卒業アルバム』024 頁。
- 69 「第七回シンポジウムのバックストーリー——深井智朗氏の研究不正事件とそこに含まれる人文学／人文科学の重要問題——」(単) 2020/09 『人文論集』第69号 2-11 頁。
- 70 「With コロナ時代の学びについて——モバイルな形態の新しい学び模索すべきではないか」(単) 2020/11 『全私学新聞』令和2年11月13日発行, 第1面「論壇」。
- 71 「アフターコロナの大学についての提言」(単) 2021/03 私立大学情報教育協会『大学と情報』(2020年度 No. 2) 巻頭言。
- 72 「シュライアマハーの『キリスト教信仰』を訳し終えて」(単) 2021/03 『週刊読書人』2021年3月12日発行, 第8面。
- 73 「ありふれたもの」(単) 2021/03 北海学園大学『学報』第125号,

第1面。

- 74 「北海学園大学の研究力」2021/03 『未知なる道を切り拓く北海学園大学の研究力』裏表紙。
- 75 「図書館についての私的断想—北海学園大学図書館学課程50周年を祝して」(単)2021/03 『北海学園大学図書館学課程50周年記念誌』8-11頁。
- 76 「「明けない夜」と「暮れない日」」(単)2022/03 北海学園大学『学報』第129号, 第1面。
- 77 「北海学園大学の沿革と将来展望」(単)2023/03 日本私立大学協会北海道支部『創立60周年記念誌』。
- 78 「二期六年の学長職を辞するにあたって」(単)2023/03 北海学園大学『学報』第132号, 第1面。

(10) インタビュー・取材記事

- 01 「今度は日本語で」1987/10 『中外日報』昭和62年10月2日号, 第13面。
- 02 「この先生抜きでは語れない われらが学科長!!」2002/12 『聖学院大学欧米文化学科 Newsletter』No. 3, 第6面。
- 03 「哲学の道へ」2003/03 『聖学院大学欧米文化学科 Newsletter』No. 4, 教授たちの人生失敗談, 第6面。
- 04 「機関長に聞く!」2010/09 北海学園大学『学報』第83号, 2010年(平成22年)9月1日, 第8面。
- 05 「本から自分が変わるような知識を」2013/12 『2014新入生おすすめ本』, 14-15頁。
- 06 「機関長に聞く!」2014/06 北海学園大学『学報』第98号, 2014年(平成26年)6月1日, 第7面。
- 07 「人文学部から初の選出 安酸教授 学長に就任」2017/06 『北海学園大学新聞』再刊第161号, 第2面。
- 08 「安酸敏真さん 北海学園大学学長」2017/09/06 『札幌人図鑑』

第 1354 回, J : COM, <https://jinzukan.myjcom.jp/sapporo/post/1537>。

- 09 「けいざいナビ北海道・トップの逸本」2017/11 『テレビ北海道』
11 月 18 日放映。

(11) 入学式および卒業式での式辞

- 01 「AIM HIGH (望みを高く持つ)」2017/04/02, 平成 29 年度入学式,
於：きたえーる。
- 02 「アルマ・マータ (alma mater)」2017/09/30, 平成 29 年度 9 月卒業式, 於：ガーデンパレス。
- 03 「永劫の心のすみか」2018/03/21, 平成 29 年度卒業式, 於：きたえーる。
- 04 「開拓精神君知るや」2018/04/ 3, 平成 30 年度入学式, 於：きたえーる。
- 05 「同窓の絆」2019/09, 平成 30 年度 9 月期卒業式, 於：ガーデンパレス。
- 06 「自己研鑽の場としての大学」2019/02, 平成 31 年度入学式, 於：きたえーる。
- 07 「卒業生・修了生の皆さんへのはなむけの言葉」2020/03, 令和元年度卒業式。
- 08 「令和 2 年度の 9 月期卒業式に寄せて」2020/09, 令和 2 年度 9 月期卒業式, 於：ガーデンパレス。
- 09 「ありふれたもの」2021/03, 令和 2 年度卒業式, 於：きたえーる。
- 10 「令和 3 年度の 9 月期卒業式に寄せて」2021/09, 令和 3 年度 9 月期卒業式, 於：ガーデンパレス。
- 11 「明けない夜」と「暮れない日」2022/03, 令和 3 年度卒業式, 於：きたえーる。
- 12 「自らの人生の開拓者であれ！」2022/04, 令和 4 年度入学式, 於：きたえーる。

- 13 「令和4年度の9月期卒業式に寄せて」2022/09, 令和4年度9月期卒業式, 於: ガーデンパレス。
- 14 「無くてならぬ唯一のもの—Unum Necessarium (The One Thing Necessary)」2023/03, 令和4年度卒業式, 於: きたえーる。

(12) 発題・一般講演

- 01 「UIの明確化と戦略性—北海学園大学教育の課題と展望」(単) 2013/10 第47回北海学園教育研究集会(2013.10.30 北海学園大学)。
- 02 「新しい人文学の地平を求めて」(単) 2014/11 第2回人文学の挑戦, 紀伊国屋書店札幌本店インナーガーデン(2014.11.8, 16:00-17:30)。
- 03 「私立大学職員としての初任者心得」(単) 2018/06 平成30年度私大協初任者研修会基調講演(ガーデンパレス)。
- 04 「真理探究とアカデミック・キャピタリズムの狭間で」(単) 2018/06 私大協事務局長相当者会議(2018.06.26 北海学園大学国際会議場)。
- 05 「人文学の非実用的有用性」(単) 2018/07 地域連携特別講座(2018.07.05 北広島市)『2018(平成30)年度 第4回 地域連携特別講座記録集～道民カレッジ～』(2019年1月, 北海学園大学地域連携推進機構) 1-23頁。
- 06 「現代大学事情」(単) 2018/07 京都大学経済学部同窓会(2018.07.13 札幌グランドホテル)。
- 07 「北海学園大学のこれから」(単) 2022/10 北海学園大学同窓会拡大全国支部長会議(2022.10.22 札幌パークホテル)。

(13) 北海通信(私家版PDF)

No. 1 (2008.1.6)～No. 29 (2008.7.20) 毎週日曜日刊行。

競争的研究資金の交付実績

I. 科学研究費補助金

- 01 奨励研究 A, 昭和 60-61 年度, 「近代的歴史意識の成立とその神学的意義」, 研究代表者, 200 万円…ディルタイ, ヘーゲル, ヘルダー, レッシングを対象として近代的歴史意識の成立を発展的に追跡する試み。
- 02 一般研究 (C), 平成 6 年度, 「レッシングの神学思想のスピリチュアリズム的背景についての研究」, 研究代表者, 90 万円…「スピリチュアリズム」の伝統との連関において, レッシングの神学的・宗教哲学的思想を解釈しようとする試み。
- 03 研究成果公開促進費, 平成 10 年度, 研究代表者, 160 万円…『レッシングとドイツ啓蒙』(創文社, 1998 年)の刊行費用(1. 著書(単著) 02 参照)。
- 04 基盤研究 (C) (2), 平成 10-12 年度, 「『万有在神論』(Panentheismus) についての研究」, 研究代表者, 230 万円…レッシングの「ヘン・カイ・パーン」がスピノザ主義ではなく, スピリチュアリズムに由来する「万有在神論」であることを論証。併せて, レッシングに固有な「万有在神論」と, セバスティアン・フランク, フェヒナー, トレルチ, ハーツホーン, 西田幾多郎の主唱する「万有在神論」との異同を明らかにしようと企てた。
- 05 基盤研究 (C) (2), 平成 15-16 年度, 「セバスティアン・フランクにおける終末論と神秘主義」, 研究代表者, 290 万円…セバスティアン・フランクの霊性主義の思想構造を, とくに終末論と神秘主義とにスポットを当てて分析しようと試みた。
- 06 基盤研究 (C) (一般), 平成 21-23 年度, 「解釈学と歴史主義—A・ベークと J・G・ドロイゼンについての事例研究」, 研究代表者, 442 万円…ベークとドロイゼンにおいて《解釈学》と《歴史主義》のモチーフがいかに密接に関連し合っているかを究明した。
- 07 基盤研究 (B) (一般), 平成 23-26 年度, 「ラインホルド・ニー

バーの宗教・社会・政治思想の研究」(研究代表者 高橋義文), 研究分担者, 950 万円(総額)…聖学院大学総合研究所のニーバー研究を側面的にサポート。

- 08 研究成果公開促進費, 平成 24 年度, 研究代表者, 190 万円…『歴史と解釈学—《ベルリン精神》の系譜学』(知泉書館, 2012 年)の刊行費用(1. 著書(単著) 05 参照)。
- 09 基盤研究(C)(一般), 平成 25-27 年度, 「《ベルリン精神》の内的相剋としてのシュライアマッハーとヘーゲルについての研究」, 研究代表者, 481 万円…ベルリン大学草創期における二大巨匠シュライアマッハーとヘーゲルの神学的・宗教哲学的思想の共通点と差異を究明した。
- 10 基盤研究(C)(一般), 平成 28-31 年度「「キリスト教学」の範型としてのシュライアマッハー＝トレルチ的伝統の再検証」, 研究代表者, 468 万円…わが国の「キリスト教学」がシュライアマッハー＝トレルチ的な神学観を範型としていることを実証した。

II. 科学研究費補助金以外

- 01 American Academy of Religion Academy Series 出版助成, 昭和 61 年度, 研究代表者, 出版費用全額…ヴァンダービルト大学に受理された学位論文が American Academy of Religion (AAR) の Academy Series No. 55 に選定され, *Ernst Troeltsch: Systematic Theologian of Radical Historicity* (Atlanta: Scholars Press, 1986) として出版された。
- 02 国際交流基金フェローシップ事業助成金, 平成 11 年度, 「万有在神論に関する比較研究」, 研究代表者, 86.2 万円…アウクスブルク大学での半年間の在外研究に対して, 渡航費と滞在費とが支給された。
- 03 聖学院大学研究叢書出版助成, 平成 12 年度, 研究代表者, 100 万円…「聖学院大学研究叢書 2」に選定され, 『歴史と探求—レッシ

ング・トレルチ・ニーバー』(聖学院大学出版会, 2001 年)として出版された。

- 04 AAR Reflection and Theory in the Study of Religion Series 出版助成, 平成 13 年度, 研究代表者, 出版費用全額…AAR の新しいシリーズに選定され, *Lessing's Philosophy of Religion and the German Enlightenment* (New York: Oxford University Press, 2002) として出版された。

